

IBM InfoSphere Optim
バージョン 2 リリース 2 モディフィケーション 3

IBM Optim Manager の使用



IBM InfoSphere Optim

バージョン 2 リリース 2 モディフィケーション 3

IBM Optim Manager の使用



注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、39 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Optim ソリューション・コンポーネントのバージョン 2、リリース 2、モディフィケーション 3、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM InfoSphere Optim
Version 2 Release 2 Modification 3
Using IBM Optim Manager

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2011.11

© Copyright IBM Corporation 2008, 2011.

目次

| | |
|--------|---|
| 本書について | v |
|--------|---|

第 1 章 InfoSphere Optim ソリューションのコンポーネント

| | |
|---|---|
| Optim Manager | 1 |
| Optim Management Server | 1 |
| レジストリーおよびリポジトリー | 1 |
| Optim Proxy | 2 |
| Optim Executor | 2 |
| 他のサービス実行コンポーネント | 2 |
| Optim Service Publisher | 3 |
| Manager およびその他のコンポーネントを使用した、 レジストリー内のサービスの実行方法 | 3 |

第 2 章 アプリケーション・サーバー上の Manager の開始

| | |
|--------------------------------|---|
| アプリケーション・サーバー上の Manager へのアクセス | 5 |
| Manager のアクセシビリティ機能 | 6 |

第 3 章 Manager の構成

| | |
|--|----|
| レジストリーの場所の設定 | 9 |
| Manager への Management Server の追加 | 10 |
| Management Server へのライセンスの追加 | 10 |
| Manager への Proxy の追加 | 11 |
| リポジトリーへのデータベース・ドライバの追加 | 12 |
| 異なる Management Server または Proxy へのサービスの再割り当て | 12 |
| サービスのサービス計画の変更 | 13 |
| 1 つのレジストリーから別のレジストリーへのサービスのプロモート | 13 |
| ファイルへのサービスのエクスポート | 13 |
| ファイルからのサービスのインポート | 14 |
| サービス・セットの作成 | 14 |

| | |
|------------------------------------|----|
| サービス・グループの作成 | 15 |
| サービス・グループへのユーザー・アクセス権限の付与 | 15 |
| Manager のユーザー定義のタブの作成 | 16 |
| Manager のタブへのアクセス権限の変更 | 16 |
| 外部システム・ユーザーの Manager ユーザー・アカウントの作成 | 16 |

第 4 章 Manager の使用

| | |
|------------------------------------|----|
| サービスまたはサービス・セットの実行 | 19 |
| サービスまたはサービス・セットのスケジューリング | 20 |
| サービスの停止 | 21 |
| Manager を使用してサービス・インスタンスの状況をモニターする | 21 |

第 5 章 コマンド行の処理の使用

| | |
|---------|----|
| コマンド行の例 | 30 |
|---------|----|

第 6 章 レジストリーへのサービスとしての Optim 要求の公開

付録. Optim Manager のユーザー・インターフェースのリファレンス

| | |
|-----------|----|
| ダッシュボード | 35 |
| 構成 | 36 |
| サービス管理 | 36 |
| サービス・モニター | 37 |
| 設定 | 38 |

特記事項

| | |
|----|----|
| 商標 | 41 |
|----|----|

索引

本書について

本書では、レジストリー内にあるサービスを実行して管理するように、IBM Optim Manager を構成して使用する方法を説明します。

第 1 章 InfoSphere Optim ソリューションのコンポーネント

レジストリーに公開された IBM® InfoSphere™ Optim™ サービスを実行するには、InfoSphere Optim ソリューションのコンポーネントを使用します。InfoSphere Optim サービスの開発およびテストを行うには、IBM Optim Designer を使用します。サービスの開発が完了したら、後工程のテスト用または実働用にレジストリーにサービスを公開することができます。

Optim Manager

IBM Optim Manager は、サービスの構成、実行、モニター、および管理を行うために使用できる Web アプリケーションです。さらに、Optim Manager を使用して、これらのサービスを実行するために使用されるコンポーネントを構成することもできます。この Optim Manager は、*Manager* とも呼ばれます。

IBM Optim Designer を使用して開発するサービスを実行するには、Optim Designer から Manager にアクセスしてください。(この Optim Designer は *Designer* とも呼ばれます。) サービスの開発が完了したら、Manager を使用してレジストリーにサービスを公開してください。もしくは、Manager を使用してファイル・システムにサービスをエクスポートしてください。

レジストリーに公開したサービスの実行や管理を行うには、アプリケーション・サーバーから Manager にアクセスしてください。Manager は、サポートされているすべてのアプリケーション・サーバーにデプロイできる Web アーカイブ (WAR) ファイルとして提供されます。例えば、Manager を WebSphere® Application Server Community Edition にデプロイできます。こうすることで、アプリケーション・サーバー上の Manager にアクセスし、Manager を使用して任意のレジストリーでサービスを実行したり管理したりすることができます。

Management Server WAR ファイルと Manager WAR ファイルを、同じアプリケーション・サーバーにデプロイすることも、それぞれ別のアプリケーション・サーバーにデプロイすることもできます。

Optim Management Server

IBM Optim Management Server は、レジストリーとリポジトリにあるサービスに対するサービス要求を管理したりモニターしたりする Web アプリケーションです。Optim Management Server は、レジストリーとリポジトリをホストすることもできます。この Optim Management Server は、*Management Server* とも呼ばれます。

Management server は、サポートされているすべてのアプリケーション・サーバーにデプロイできる Web アーカイブ (WAR) ファイルとして提供されます。例えば、Management server を WebSphere Application Server Community Edition にデプロイできます。Management Server と Manager を、同じアプリケーション・サーバーにデプロイすることも、それぞれ別のアプリケーション・サーバーにデプロイすることもできます。

レジストリーおよびリポジトリ

レジストリーは、サービスおよび他のリソースが登録されているサブシステムです。レジストリーは、サービスおよびリソースの場所を指定するために使用されます。リポジトリは、データおよび他のアプリケーション・リソースのための永続的なストレージ域です。

レジストリーおよびリポジトリーは、Management Server とともにインストールされ、Management Server と同じコンピューターに置かれます。

Optim Proxy

IBM Optim Proxy は常に実行されているプロセスであり、サービス要求を Management server から受け取り、処理するサービス要求を転送します。Optim Proxy は、サービス要求が完了するまで、実行中のサービス要求をモニターします。この Optim Proxy は、Proxy と呼ばれます。

Proxy がサービス要求を転送するコンポーネントは、サービスのタイプによって異なります。

- サービスのタイプによっては、Proxy が Proxy コンピューター上のコンポーネントのインスタンスを開始する場合があります。（例えば、Proxy が Executor のサービス要求を受け取ると、Proxy は Proxy コンピューター上の Executor のインスタンスを開始します。）これらのサービスをより高速に処理するには、処理するデータ・ソースへの高速接続を持ったコンピューターに Proxy をインストールします。
- それ以外のタイプのサービスの場合、Proxy はサービス要求を別のコンピューター上のサービス実行コンポーネントに送信します。サービス要求が完了すると、Proxy は、サービス要求の状況を Manager と Management Server に返します。

Optim Executor

IBM Optim Executor とは、Executor をサービス実行コンポーネントとして指定する（サービス・タイプが「**Executor**」である）サービスを実行するプロセスです。Optim Executor によって、データベースとの通信、またはサービスが必要とするその他のタイプのリソースとの通信のためにサービスが必要とするフレームワークが提供されます。この Optim Executor は、Executor と呼ばれます。

Executor をサービス実行コンポーネントとして指定するサービスは、データ管理サービス と呼ばれます。

サービスを実行すると、Executor のインスタンスが起動され、Executor はサービスを処理します。Executor がサービスを完了すると、Executor はサービスが完了したことを Executor を起動したコンポーネントに報告します。その後、Executor は終了します。

Executor は Designer または Proxy と同じコンピューターにインストールされます。

ルックアップ・データを使用するサービスを実行するには、Executor がルックアップ・データへのアクセス権限を持っていることを確認します。ルックアップ・データは、Executor コンピューター上のデータベースまたは Executor コンピューターへの高速接続を持つコンピューター上のデータベースにロードします。

他のサービス実行コンポーネント

サービスのタイプによっては、Executor 以外のサービス実行コンポーネントが必要になる場合があります。例えば、サービスが分散プラットフォーム上の Optim で実行されるように開発されたものかもしれません。

このような他のサービス実行コンポーネントを使用するサービスを実行するためには、Designer または Proxy の構成が必要となる場合があります。特定のサービス実行コンポーネントを使用するサービスを実行するための Designer の構成方法について詳しくは、Designer のユーザー情報を参照してください。特定のサービス実行コンポーネントを使用するサービスを実行するための Proxy の構成方法について詳しくは、Proxy の構成情報を参照してください。

Optim Service Publisher

IBM Optim Service Publisher は、Optim Directory の要求からサービスを生成し、そのサービスをレジストリーに公開するコマンド行ユーティリティです。サービスが生成および公開された後、Manager を使用してサービスを実行できます。(Optim Service Publisher は、*Publisher* と呼ばれます。)

Publisher を使用して、Optim Directory の個々の要求に対して 1 つのサービスを生成できます。また、Publisher を使用して、一度に多数の要求に対してサービスを生成することもできます。

Publisher がサービスを生成する際、サービスは Optim Directory のオリジナル Optim 要求のパラメーターを指定して実行するように設定されます。Publisher サービスが使用するパラメーターを変更するには、オリジナル Optim 要求のパラメーターを変更する必要があります。Manager を使用して、Publisher サービスが使用するパラメーターを変更することはできません。

Manager およびその他のコンポーネントを使用した、レジストリー内のサービスの実行方法

サービス要求を正常に完了させるには、コンポーネントが連動していなければなりません。

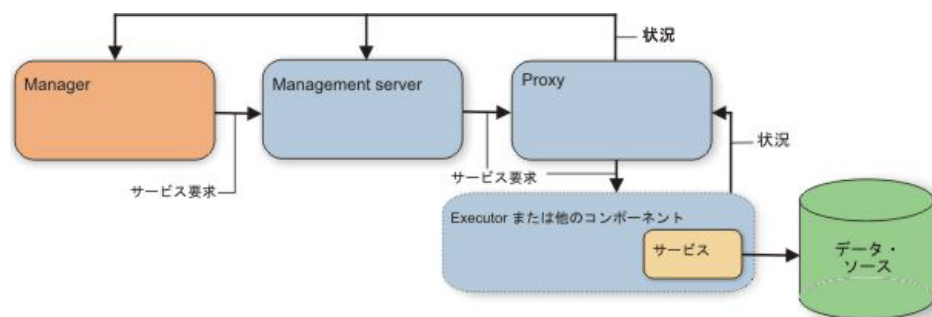


図 1. サービスを実行するコンポーネント

この図には、コンポーネントがどのように連動し、サービスを実行するかが示されています。

1. アプリケーション・サーバー管理者が Management Server と Manager を開始し、Proxy コンピューターの管理者が Proxy を開始します。Management Server、Proxy、および Manager は、継続的に実行されるように設計されています。
2. オペレーターは Manager を使用して、サービスを実行、またはスケジュールします。
3. Manager は、サービスが割り当てられている Management Server にサービス要求を送信します。
4. Management Server は、そのサービスが割り当てられた Proxy にサービス要求を転送します。
5. Proxy はサービスに指定されているコンポーネントを使用して、サービスを開始します。Executor が実行するサービスの場合、Proxy はサービス要求を処理する Executor のインスタンスを開始します。別のコンポーネントが実行するサービスの場合、Proxy はサービス要求をそのコンポーネントに渡します。
6. Executor またはその他のサービス実行コンポーネントがサービスを実行します。
7. サービスは、そのサービス計画に含まれるタスクを実行します。
8. Executor によって実行されるサービスの場合、Proxy は、Executor がサービスを実行する間、その Executor を継続的にモニターします。

9. サービスが完了すると、Executor またはサービスを実行したコンポーネントがサービス要求状況を Proxy に返します。Executor のインスタンスも自動的に終了します。
10. Proxy は、サービス要求状況を Management Server と Manager に返します。

第 2 章 アプリケーション・サーバー上の Manager の開始

レジストリーに置かれているサービスの実行と管理を行うには、最初に Manager をアプリケーション・サーバー上で開始する必要があります。Manager がアプリケーション・サーバーで開始されると、いつでも Manager にアクセスできます。

Manager を開始できるようにするには、先に Manager のインストールが必要です。Manager および Manager がサービス実行のために使用するコンポーネントの初期構成を実行することも必要です。例えば、Manager の WAR ファイルをアプリケーション・サーバーにデプロイする必要があります。

アプリケーション・サーバー上で Manager を開始するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーを開始します。アプリケーション・サーバーが、Manager の Web アプリケーションを自動的に開始するように設定されている場合は、アプリケーション・サーバーの直後に Manager が開始されます。Manager と共に提供されるバージョンの WebSphere Application Server Community Edition に Manager をデプロイした場合、以下のステップを実行します。このステップで、*shared_installation_directory* は Manager 用に指定したインストール・ディレクトリーです。
 - Microsoft Windows コンピューターの場合: 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Optim」 > 「WAS-CE の開始」の順にクリックするか、
shared_installation_directory¥WebSphere¥AppServerCommunityEdition¥bin¥startup.bat スクリプトを実行します。
 - Linux または UNIX コンピューターの場合: *shared_installation_directory*/WebSphere/AppServerCommunityEdition/bin/startup.sh スクリプトを実行します。
2. 必要に応じて、アプリケーション・サーバー・コンソールを使用して、Manager の Web アプリケーションを開始します。Manager と共に提供されるバージョンの WebSphere Application Server Community Edition に Manager をデプロイした場合、以下のステップを実行します。
 - a. Web ブラウザーを使用して、管理コンソールにアクセスおよびサインインします。デフォルトの場所は `http://hostname:port/console/` です。ここで、*hostname* は WebSphere Application Server Community Edition コンピューターのホスト名または IP アドレスであり、*port* はポート番号です。デフォルトのポート番号は 8080 です。ユーザー ID `system` およびパスワード `manager` を使用して、管理コンソールにアクセスします。
 - b. 「Web アプリケーション WAR (Web App WARs)」をクリックします。
 - c. `/optim` の URL を指定してコンポーネントの「開始」をクリックします。

コンピューターを再始動した後 Manager を自動的に開始するようにするには、アプリケーション・サーバーを Windows サービス、もしくは Linux または UNIX デーモンとして構成します。

アプリケーション・サーバー上の Manager へのアクセス

レジストリーに置かれているサービスの実行や管理を行うには、アプリケーション・サーバーにデプロイされる Manager のインスタンスを使用する必要があります。

アプリケーション・サーバー上の Manager にアクセスするには、Web ブラウザーを使用して Manager にアクセスおよびサインインします。ロケーションは次のとおりです。ここで、*hostname* および *port* は、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーのホスト名およびポートです。

- デフォルトのカラー・スキームの場合、`http://hostname:port/optim/console` を使用します。

- 白の背景に黒のテキストを使用するハイコントラスト・カラー・スキームの場合、
`http://hostname:port/optim/console#contrast=bw` を使用します。
- 黒の背景に白のテキストを使用するハイコントラスト・カラー・スキームの場合、
`http://hostname:port/optim/console#contrast=wb` を使用します。
- スクリーン・リーダーを使用するのに適したマネージャーのバージョンの場合、`http://hostname:port/optim/console?accessible=true` を使用します。

Manager と共に提供されるバージョンの WebSphere Application Server Community Edition に Manager をデプロイした場合、デフォルトのポートは 8080 です。

Manager にアクセスできない場合、以下の条件が満たされていることを確認してください。

- Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーで Manager が開始されている。
- Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーに、ご使用のコンピューターからアクセスできる。
- Web ブラウザーが Manager によってサポートされており、サポートされているバージョンの Adobe Flash Player プラグインが Web ブラウザーで使用されている。

ブラウザーを使用して、今後のアクセス用にロケーションのブックマークを付けることができます。

Manager のアクセシビリティ機能

Manager には、ユーザー・インターフェースの表示、読み取り、および使用をより簡単にするための機能が含まれています。

支援機能の使用

Manager では、ユーザー・インターフェースに表示される情報を音声で聞くための支援技術を使用できます。支援技術には、スクリーン・リーダーおよびデジタル音声合成装置が含まれています。

Manager でスクリーン・リーダーを使用するには、次の場所で Web ブラウザーを使用して Manager へアクセスします。

`http://hostname:port/optim/console?accessible=true`

hostname および *port* は、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーのホスト名およびポートです。

Manager で支援機能を使用する方法についての詳細は、使用する支援機能の製品資料を参照してください。

フォント・サイズの変更

「設定」を使用して、インターフェースで使用するフォント・サイズを指定できます。フォント・サイズの変更は、ローカル・コンピューターに保存されます。そのローカル・コンピューターのすべてのユーザーが次回 Manager にアクセスするときに、Manager は保存されているフォント・サイズを使用します。

ハイコントラスト・カラー・スキーム

デフォルトのカラー・スキームを使用する代わりに、Manager を読みやすくするためにハイコントラスト・カラー・スキームを使用できます。「設定」を使用して、インターフェースで使用するカラー・スキーム

ムを指定できます。カラー・スキームの変更は、ローカル・コンピュータに保存されます。そのローカル・コンピュータのすべてのユーザーが次回 Manager にアクセスするときに、Manager は保存されているカラー・スキームを使用します。

Manager にアクセスするために使用する URL を変更して、「設定」におけるカラー・スキームの設定をオーバーライドできます。テキストを黒、背景を白にするには、URL が #contrast=bw で終わるようにします。テキストを白、背景を黒にするには、URL が #contrast=wb で終わるようにします。

キーボード・ナビゲーション

インターフェースで、あるオブジェクトのフォーカスを別のオブジェクトに移動するには、Tab キーを押すか、Shift キーを押しながら Tab キーを押します。フォーカスのあるオブジェクトを選択するには、Space キーを押します。

オブジェクトに複数のパーツ（一連のタブなど）がある場合は、以下のステップをすべて実行することによりパーツを選択できます。

1. Tab キーを押すか、Shift キーを押しながら Tab キーを押して、オブジェクトにフォーカスを移動します。
2. 矢印キーを押して対象のパーツにフォーカスを変更します。
3. Space キーを押して対象のパーツを選択します。

ナビゲーション・ツリー内では、右矢印キーを押すとツリー・ノードが展開し、左矢印キーを押すとツリー・ノードが省略されます。

Manager に含まれているリストは、フォルダーを使用して編成されています。

- リスト内のフォルダーを省略するには、次のようにします。
 1. Tab キーを押して、リストを選択します。
 2. 矢印キーを押してフォルダーを選択します。
 3. テンキーの - を押します。
- リスト内のフォルダーを展開するには、次のようにします。
 1. Tab キーを押して、リストを選択します。
 2. 矢印キーを押してフォルダーを選択します。
 3. テンキーの + を押します。
- リスト内のフォルダーを省略または展開するには、次のようにします。
 1. Tab キーを押して、リストを選択します。
 2. 矢印キーを押してフォルダーを選択します。
 3. テンキーの * を押します。
- 「サービス管理」のリスト内のあるフォルダーから別のフォルダーへオブジェクトを移動するには、次のようにします。
 1. 矢印キーを押して、移動するオブジェクトを選択します。
 2. Ctrl+M を押します。フォルダー・リストのダイアログが表示されます。
 3. Tab キーを押して、フォルダーのリストを選択します。
 4. 矢印キーを押して、オブジェクトの移動先のフォルダーを選択します。
 5. Tab キーを押して、「OK」を選択します。
 6. スペース・キーを押します。

リスト内の項目を列ごとにアルファベット順でソートするには次のようにします。

1. Tab キーを押すか、Shift キーを押しながら Tab キーを押して、リストにフォーカスを移動します。
2. 下矢印キーを押して、リスト内の行にフォーカスを移動します。
3. フォーカスがリストの見出しに移動するまで、上矢印キーを押します。
4. 左矢印キーまたは右矢印キーを押して、最初にソートする列にフォーカスを移動します。
5. スペース・キーを押して、フォーカスのある列でリストをソートします。Ctrl キーを押しながらスペース・キーを押して、ソートの昇順と降順を切り替えます。
6. リストに 2 次ソートを追加するには、左矢印キーまたは右矢印キーを押して 2 次ソート列にフォーカスを移動し、Ctrl キーを押しながらスペース・キーを押します。
7. 別の列でリストをソートするには、左矢印キーまたは右矢印キーを押してフォーカスをその列に移動し、スペース・キーを押します。

日付ボックス内では、Ctrl キーを押しながら下矢印キーを押して、カレンダーを表示します。Page Down キーと Page Up キーを押してカレンダーの月を変更し、矢印キーを押してカレンダーの日を選択します。フォーカスが日付にある場合は、Enter キーを押せばその日付が選択されます。日付を選択しないでカレンダーを閉じる場合は、Esc キーを押します。

円グラフの情報を表形式で表示する

円グラフを、スクリーン・リーダーを使用して読み取り可能な表に変更するには、「ダッシュボード」ページの「サービス管理」ペインで、Tab キーを押して「表形式ビュー」を選択し、スペース・キーを押します。表を円グラフに戻すには、Tab キーを押して「グラフ・ビュー」を選択し、スペース・キーを押します。

詳細情報

Manager は、Adobe Flex テクノロジーを使用しています。このテクノロジーには、固有のキーボード・ナビゲーション・ショートカットがあります。Flex のアクセシビリティ機能に関する詳細は、以下の Adobe の Web サイト (新しいウィンドウでリンクが開きます) から入手できます。

http://livedocs.adobe.com/flex/3/html/help.html?content=accessible_5.html

第 3 章 Manager の構成

レジストリーに公開されたサービスを実行するには、これらのサービスを実行するために使用するコンポーネントを、管理者がまずインストールして開始する必要があります。管理者はその後、Manager をその他のコンポーネントに接続し、サービスを Management Server と Proxy に割り当てることができます。

開始する前に、Web ブラウザーを使用して Manager にアクセスおよびサインインする必要があります。デフォルト・ロケーションは `http://hostname:port/optim/console/` です。ここで、*hostname* および *port* は、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーのホスト名およびポートです。

Management Server および Manager と共に提供されているバージョンの WebSphere Application Server Community Edition をインストールし、その WebSphere Application Server Community Edition に Manager をデプロイした場合、デフォルト・ポートは 8080 です。

Manager にアクセスできない場合、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーの管理者が Manager を開始していること、ご使用のコンピューターからアプリケーション・サーバーにアクセスできること、および Web ブラウザーが Manager によってサポートされており、サポートされているバージョンの Adobe Flash Player プラグインが Web ブラウザーで使用されていることを確認してください。

レジストリーの場所の設定

レジストリーに置かれたすべてのサービスを実行する前に、レジストリーにアクセスできるように Manager を設定する必要があります。レジストリーには、サービスと他のコンポーネントの場所および構成情報が含まれています。

レジストリーの場所を設定できるのは、ユーザー・ロールが `admin` のユーザーのみです。

デフォルトでは、Manager はレジストリーを `http://localhost:8080/server/registry` で検索するように設定されています。この場所は、Manager と Management Server が同じアプリケーション・サーバーにデプロイされており、アプリケーション・サーバーがポート 8080 を使用する場合に有効です。`localhost` をホスト名として使用することで起こり得る問題を回避するため、または、レジストリーを別の Management Server で使用するためには、`localhost` を Management Server のホスト名または IP アドレスに置き換えて、8080 をアプリケーション・サーバーで使われるポートに置き換えます。この情報がない場合は、Management Server をデプロイするアプリケーション・サーバーの管理者にお問い合わせください。

Manager にレジストリーの場所を設定するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「**設定**」をクリックします。
3. 「**グローバル設定**」をクリックします。
4. レジストリーの場所を「**レジストリーの場所**」に入力して、「**レジストリーの場所の検証 (Validate Registry Location)**」をクリックします。
5. レジストリーの場所が有効な場合は、「**保存**」をクリックします。

Manager への Management Server の追加

レジストリーに置かれているすべてのサービスを実行する前に、Management Server にサービスの割り当てを行う必要があります。サービスを Management Server に割り当てる前に、Management Server を Manager に追加する必要があります。

ユーザー・ロールが admin のユーザーだけが、Management Server を Manager に追加できます。

Management Server を Manager に追加する前に、Management Server をレジストリーに登録する必要があります。複数の Management Server を使用する場合、すべての Management Server がレジストリーに登録されるように以下のステップを実行する必要があります。

1. レジストリーをホストするコンピューターと他の Management Server の間のネットワーク接続が妨げられずに確保されていることを確認します。
2. レジストリーをホストするコンピューターの Management Server を実行します。
3. 他の Management Server を実行します。

Management Server を Manager に追加するには、以下のようになります。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「構成」をクリックします。
3. 「Management Server」をクリックします。
4. 「追加」をクリックします。
5. Manager に追加する Management Server の Uniform Resource Identifier (URI) をクリックし、Manager 内で Management Server に使用する論理名を入力して、「OK」をクリックします。追加する Management Server の URI のリストがダイアログに表示されない場合、以下のステップを実行します。
 - a. 追加する Management Server とレジストリーをホストする Management Server の間のネットワーク接続が妨げられずに確保されていることを確認します。
 - b. 追加する Management Server をシャットダウンして再始動します。

追加する Management Server の URI のリストがまだダイアログに表示されない場合、以下のステップを実行します。

- a. レジストリーをホストする Management Server をシャットダウンして再始動します。
- b. 追加する Management Server をシャットダウンして再始動します。

Management Server へのライセンスの追加

Manager を使用してライセンスを Management Server に追加します。ライセンスにより、ライセンスに指定されているタイプのサービスを Executor が実行できるようになります。例えば、データ・プライバシーのライセンスを Management Server に追加すると、Management Server により、データベース内のデータをマスクするサービスを、Executor が実行できるようになります。

ユーザー・ロールが admin または dba のユーザーだけが、ライセンスを Management Server に追加できます。Management Server へライセンスを追加するには、ユーザーに「Management Server」>「構成」タブに対するアクセス権限が必要です。

ライセンスを Management Server に追加する前に、Management Server を Manager に追加する必要があります。

このタスクは、Executor を使用して実行されるサービス (サービス・タイプが「**Executor**」) のライセンスに対してのみ適用されます。Executor 以外のサービス実行コンポーネントの場合、そのサービス実行コンポーネントに指定される手順を使用してライセンスを管理する必要があります。Executor 以外のサービス実行コンポーネントのライセンスを管理する方法については、サービス実行コンポーネントの資料を参照してください。

Manager を使用してライセンスを Management Server に追加するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「**構成**」をクリックします。
3. 「**Management Server**」をクリックします。
4. 「**ライセンスの追加**」をクリックします。
5. ライセンスを追加する Management Server を選択して、Management Server ライセンスのライセンス・キーとライセンス・ファイル名を入力して、「**ライセンスのアップロード**」をクリックします。

Manager への Proxy の追加

Proxy を使用してレジストリーに配置されているサービスを実行する前に、Proxy を Manager に追加する必要があります。

ユーザー・ロールが admin のユーザーだけが、Proxy を Manager に追加できます。

Proxy を Manager に追加する前に、Proxy をレジストリーに登録する必要があります。Proxy がレジストリーに登録されるようにするには、以下のステップを実行する必要があります。

1. Proxy コンピューターとレジストリーをホストする Management Server の間のネットワーク接続が妨げられずに確保されていることを確認します。
2. レジストリーをホストする Management Server を実行します。
3. Proxy を実行します。

Proxy を Manager に追加するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「**構成**」をクリックします。
3. 「**プロキシー**」をクリックします。
4. 「**追加**」をクリックします。
5. 追加する Proxy の Uniform Resource Identifier (URI) をクリックし、Proxy に使用する論理名を入力して、「**OK**」をクリックします。追加する Proxy の URI のリストがダイアログに表示されない場合、以下のステップを実行します。
 - a. Proxy コンピューターとレジストリーをホストする Management Server の間のネットワーク接続が妨げられずに確保されていることを確認します。
 - b. Proxy をシャットダウンして再始動します。

追加する Proxy の URI のリストがダイアログに引き続き表示されない場合、以下のステップを実行します。

- a. レジストリーをホストする Management Server をシャットダウンして再始動します。
- b. Proxy をシャットダウンして再始動します。

リポジトリへのデータベース・ドライバーの追加

Manager を使用してデータベース・ドライバーをリポジトリに追加します。サービスで指定されたデータベース・ドライバーがリポジトリに含まれている場合のみ、Executor を使用して、レジストリーでサービスを実行できます。

ユーザー・ロールが admin または dba のユーザーだけが、データベース・ドライバーをリポジトリに追加できます。リポジトリへデータベース・ドライバーを追加するには、ユーザーに「構成」 > 「データベース・ドライバー」タブに対するアクセス権限が必要です。

このタスクは、Executor を使用して実行するサービス（サービス・タイプが「**Executor**」）の JDBC データベース・ドライバーに対してのみ適用されます。

ネイティブ・データ・ストア・アクセスを使用するサービスの場合、Proxy コンピューターにリレーショナル・データベース・クライアント・ソフトウェアをインストールする必要があります。その後、リレーショナル・データベース・クライアント・ソフトウェアを使用するため、Proxy を構成する必要があります。

Executor 以外のサービス実行コンポーネントの場合、そのサービス実行コンポーネントに指定されている手順を使用して、データベース・ドライバーをインストールする必要があります。Executor 以外のサービス実行コンポーネントのデータベース・ドライバーを管理する方法については、サービス実行コンポーネントの資料を参照してください。

Manager を使用してデータベース・ドライバーをリポジトリに追加するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「構成」をクリックします。
3. 「データベース・ドライバー」をクリックします。
4. 「データベース・ドライバーの追加」をクリックします。
5. ダイアログに入力して、「ドライバー・ファイルをアップロード」をクリックします。

異なる Management Server または Proxy へのサービスの再割り当て

Manager を使用して、サービスの割り当てを異なる Management Server または Proxy に変更します。Manager に対して少なくとも 1 つの Management Server および Proxy が追加される場合、Manager は Management Server および Proxy を自動的にすべてのサービスに割り当てます。サービスを実行する際に、サービスが異なる Management Server または Proxy を使用するようにするには、サービスを再割り当てする必要があります。

ユーザー・ロールが admin、dba、または operator のユーザーのみ、サービスの再割り当てが可能です。サービスの再割り当てを実行できるようにするには、少なくとも 1 つの Management Server および Proxy を Manager に追加する必要があります。サービスを再割り当てするには、ユーザーに「サービス管理」タブに対するアクセス権限が必要です。

Manager を使用してサービスを再割り当てを実行するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「サービス」フォルダーを開き、サービスをクリックして、「再割り当て」をクリックします。
4. ウィザードを完了します。

サービスのサービス計画の変更

サービス計画には、データ・ソース内のデータをトランスフォームするためにサービスで使用するデフォルト値（データ・ソースにアクセスするためのユーザー名およびパスワードなど）が含まれています。サービスをレジストリーに追加した後、Manager を使用してサービス計画内の値を変更できます。サービス計画をデフォルト値に復元することもできます。

ユーザー・ロールが admin、dba、designer、または operator のユーザーのみ、サービスのサービス計画を変更できます。サービスのサービス計画を変更するには、ユーザーに「サービス管理」タブに対するアクセス権限が必要です。サービスがサービス・グループに属している場合、ユーザーに、そのサービスが属しているサービス・グループに対するアクセス権限が必要です。

Manager を使用してサービスのサービス計画を変更するには、以下のようになります。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「サービス」フォルダーを開き、そのサービスをクリックします。
4. 「サービス計画」をクリックし、サービス計画を変更して、「保存」をクリックします。 サービス計画に加えた変更は、サービス計画を再び変更するか、またはサービス計画をデフォルト値に復元するまで保存されます。

1 つのレジストリーから別のレジストリーへのサービスのプロモート

サービスを 1 つのレジストリーから別のレジストリーにプロモートできます。例えば、Quality Assurance (QA) でテスト予定のサービスと本稼働可能なサービスのレジストリーを別々にしているかもしれません。サービスが QA プロセスを通れば、サービスを QA レジストリーから実動レジストリーにプロモートできます。

ユーザー・ロールが admin または dba のユーザーだけが、1 つのレジストリーから別のレジストリーへサービスをプロモートできます。サービスをプロモートするには、ユーザーに「サービス管理」タブに対するアクセス権限が必要です。サービスがサービス・グループに属している場合、ユーザーに、そのサービスが属しているサービス・グループに対するアクセス権限が必要です。

Manager を使用して、サービスを 1 つのレジストリーから別のレジストリーにプロモートするには、次のようになります。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「サービス」を開き、サービスをクリックして、「プロモート」をクリックします。
4. ウィザードを完了します。

ファイルへのサービスのエクスポート

サービスをレジストリーからご使用のコンピューターのローカル・ファイル・システム上の .jar ファイルにエクスポートして、保存できます。jar ファイルには、XML Metadata Interchange (XMI) ファイルと、サービスの定義およびすべての関連オブジェクトが含まれています。

ユーザー・ロールが admin、dba、または operator のユーザーのみ、サービスをファイルへエクスポートできます。サービスをファイルへエクスポートするには、ユーザーに「サービス管理」タブに対するアクセス

権限が必要です。サービスがサービス・グループに属している場合、ユーザーに、そのサービスが属しているサービス・グループに対するアクセス権限が必要です。

Manager を使用してサービスをレジストリーからファイルにエクスポートするには、以下のようになります。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「サービス」を開き、サービスをクリックして、「ファイルとしてエクスポート」をクリックします。
4. ダイアログでサービスを保存する場所を選択し、「OK」をクリックします。

ファイルからのサービスのインポート

.jar ファイルからレジストリーにサービスをインポートできます。そのサービスがレジストリーに存在する場合、同じサービスの新バージョンとしてレジストリーに追加されます。

ユーザー・ロールが admin または dba のユーザーのみ、サービスをファイルからインポートできます。サービスをファイルからインポートするには、ユーザーに「サービス管理」タブへのアクセス権限が必要です。

サービスは、Manager の「設定」で設定されているレジストリーにインポートされます。

Manager は、以前のバージョンの Optim ソリューション・コンポーネントを使用して開発されたサービスのマイグレーションはサポートしません。以前のバージョンの Optim ソリューション・コンポーネントを使用して開発されたサービスを、インポートできない場合があります。そのようなサービスをインポートできる場合でも、サービスを正常に実行できない恐れがあります。Manager と以前のバージョンの Optim ソリューション・コンポーネントで開発されたサービスとの互換性に関する情報については、システム要件を参照してください。

Manager を使用してサービスをファイルからレジストリーにインポートするには、次のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「サービスをファイルからインポート」をクリックします。
4. ダイアログを使用して、ファイル・システムからファイルを選択し「開く」をクリックします。

サービス・セットの作成

サービス・セットとは、順序付けされたサービスのリストのことです。サービス・セットを実行すると、Manager はサービス・セットにある各サービスを一度に 1 つずつ、指定された順序で実行します。サービス・セットを作成し、関連するサービスの実行を自動化します。

サービス・セット内のすべてのサービスは、同じ Management Server および Proxy に割り当てられている必要があります。必要に応じて、異なる Management Server および Proxy へ再割り当てするサービスを含むサービス・セットは、サービス・セットを作成する前に再割り当てを先に行う必要があります。

サービス・セットを作成する前に、サービス・セットに含めるサービスがテストされ、安定していることを確認してください。サービス・セットは、バージョン固有です。サービス・セットを実行すると、Manager

はサービス・セットに追加された各サービスの特定のバージョンを実行します。新しいバージョンのサービスを使用するには、その新しいバージョンのサービスを指定した別のサービス・セットを作成する必要があります。

サービス・セットを作成するには、次のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの **Manager** にアクセスします。
2. 「**サービス管理**」をクリックします。
3. 「**サービス・セットの作成**」をクリックします。
4. ダイアログを使用して、サービス・セット内のサービスを選択し、順序付けします。サービス・セットに、1 つのサービスが失敗した後も、そのサービス・セット内の後続のサービスを継続して実行させる場合は、「**障害発生時に停止させる**」をクリアします。
5. サービス・セットに指定するすべてのサービスを選択し、サービスを正しい順序に並べた後、「**OK**」をクリックします。

サービス・グループの作成

サービス・グループとは、特定のユーザーだけが実行またはスケジュールするサービスの集合のことです。サービス・グループを作成して、どのユーザーが、どのサービスを実行できるかを制御します。

ユーザー・ロールが **admin** のユーザーだけが、サービス・グループを作成できます。

サービス・グループを作成するには、次のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの **Manager** にアクセスします。
2. 「**構成**」をクリックします。
3. 「**ユーザーおよびグループ**」をクリックします。
4. 「**グループ管理**」をクリックします。
5. 「**グループの追加**」をクリックします。
6. サービス・グループの名前および説明を入力して、「**OK**」をクリックします。
7. リストでそのサービス・グループを選択し、「**グループへのサービスの追加**」をクリックします。
8. サービス・グループに追加するサービスを選択し、「**OK**」をクリックします。

サービス・グループへのユーザー・アクセス権限の付与

サービス・グループとは、特定のユーザーだけが実行またはスケジュールするサービスの集合のことです。サービスがサービス・グループに属している場合、そのサービスを実行できるのは、そのサービス・グループへのアクセス権限が付与されたユーザーのみです。

ユーザー・ロールが **admin** のユーザーだけが、サービス・グループにユーザー・アクセス権限を付与できます。

サービス・グループにユーザー・アクセス権限を付与するには、次のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの **Manager** にアクセスします。
2. 「**構成**」をクリックします。
3. 「**ユーザーおよびグループ**」をクリックします。
4. 「**ユーザー管理**」をクリックします。
5. ユーザーを選択して、「**ユーザー・アクセス権限の付与**」をクリックします。

6. サービス・グループを選択して、「OK」をクリックします。

Manager のユーザー定義のタブの作成

アプリケーション・サーバーにデプロイした Manager のインスタンスの場合、Web アプリケーションまたは Web サイトを含むユーザー定義のタブを作成できます。

ユーザー・ロールが admin のユーザーだけが、Manager にユーザー定義のタブを作成できます。

Manager にユーザー定義のタブを作成するには、次のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「構成」をクリックします。
3. 「タブ」をクリックします。
4. 「ユーザー定義のタブの追加」をクリックします。
5. 使用するタブのラベルと説明、および Web アプリケーションまたは Web サイトの Uniform Resource Locator (URL) を入力して、「OK」をクリックします。

Manager のタブへのアクセス権限の変更

アプリケーション・サーバーにデプロイした Manager のインスタンスの場合、デフォルトではすべての Manager ユーザーがすべてのタブを見ることができます。タブ上で操作を実行することが許可されていない場合でも、ユーザーはすべてのタブを見ることができます。ユーザー・ロールが admin ではないユーザーに対しては、タブを非表示にすることによって Manager インターフェースをシンプルにすることができます。

ユーザー・ロールが admin であるユーザーのみ、Manager のタブへのアクセス権限を変更できます。

Manager のタブへのアクセス権限を変更するには、次のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「構成」をクリックします。
3. 「タブ」をクリックします。
4. admin ユーザー・ロールを持たないユーザーから非表示にするタブの「表示」をクリアします。すべてのユーザーで利用可能にするタブの「表示」を選択します。

ユーザーが Manager からサインアウトすると変更が有効になります。

外部システム・ユーザーの Manager ユーザー・アカウントの作成

一部の製品ソリューションに対して、Manager は外部システムのユーザー・アカウントに基づくユーザー・アカウントの作成をサポートしています。これらの製品ソリューションでは、Manager と外部システム間の統合を使用するために、この方法でユーザー・アカウントを作成する必要がある場合があります。

ユーザー・ロールが admin のユーザーだけが、外部システム・ユーザーの Manager ユーザー・アカウントを作成できます。

外部システム・ユーザーの Manager ユーザー・アカウントを作成する前に、以下のタスクを実行しておく必要があります。

- Manager および Management Server を構成して、外部システムと統合します。外部システムとの統合を構成する方法については、製品ソリューションの資料を参照してください。
- 製品ソリューションがライセンスを必要する場合、ライセンスを Management Server に追加します。

外部システム・ユーザーの Manager ユーザー・アカウントを作成するには、次のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「**構成**」をクリックします。
3. 「**ユーザーおよびグループ**」をクリックします。
4. 「**ユーザー管理**」をクリックします。
5. 「**Optim ユーザーの追加 (Add Optim User)**」をクリックします。
6. 外部システム・ユーザーを選択して、ユーザーに付与するロールを選択し、「**作成 (Create)**」をクリックします。

第 4 章 Manager の使用

Manager を構成したら、その Manager を使用して、サービスの実行、サービスのスケジュール設定、およびサービスの進行状況のモニターを行うことができます。

開始する前に、Web ブラウザーを使用して Manager にアクセスおよびサインインする必要があります。デフォルト・ロケーションは `http://hostname:port/optim/console/` です。ここで、*hostname* および *port* は、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーのホスト名およびポートです。

Management Server および Manager と共に提供されているバージョンの WebSphere Application Server Community Edition をインストールし、その WebSphere Application Server Community Edition に Manager をデプロイした場合、デフォルト・ポートは 8080 です。

Manager にアクセスできない場合、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーの管理者が Manager を開始していること、ご使用のコンピューターからアプリケーション・サーバーにアクセスできること、および Web ブラウザーが Manager によってサポートされており、サポートされているバージョンの Adobe Flash Player プラグインが Web ブラウザーで使用されていることを確認してください。

サービスまたはサービス・セットの実行

レジストリーに公開されているサービスを実行するか、またはサービス・セットを実行するには、Manager を使用します。

レジストリーに公開されているサービスを実行できるのは、サービスの実行準備ができていない場合のみです。実行準備ができていないサービスは、次の基準を満たしています。

- サービスは、アクティブかつ Manager に接続されている Management Server に割り当てられている。サービスを実行するためにライセンスが必要な場合、この Management Server には、サービスの有効なライセンスが含まれていることも必要です。
- サービスは、アクティブかつ Manager および Management Server に接続されている Proxy に割り当てられている。Proxy は、サービスに関連付けられたサービス・タイプを実行できるようになっていることも必要です。サービス・タイプが「**Executor**」および「**Distributed**」の場合、サービス実行コンポーネントがインストールおよび構成されていて、さらに Proxy がサービス実行コンポーネントを実行できるように構成されている必要があります。
- サービスに指定されているデータベース・ドライバーが、レジストリーにロードされている。

サービス・セット内のすべてのサービスの実行準備ができていない場合にのみ、サービス・セットを実行できます。

サービスまたはサービス・セットを実行するには、ユーザーに「サービス管理」タブへのアクセス権限が必要です。サービスがサービス・グループに属している場合、ユーザーに、そのサービスが属しているサービス・グループに対するアクセス権限が必要です。

Manager を使用してサービスまたはサービス・セットを実行するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「サービス」フォルダーを開きサービスをクリックするか、または「サービス・セット」フォルダーを開きサービス・セットをクリックします。

4. 「サービス計画」をクリックして、サービス計画プロパティを調べます。 サービス計画プロパティを変更できます。変更内容を保存するには、「保存」をクリックします。 サービス計画に加えた変更はすべて、サービス計画を再び変更するか、またはサービス計画をデフォルト値に復元するまで保存されます。 サービス・セットを実行中の場合、サービス・セット内の任意のサービスのサービス計画プロパティを変更できます。これらの変更はサービスそのものに対して行われ、サービス・セットに対しては行われません。
5. 「実行」をクリックして、ウィザードを完了します。

サービスまたはサービス・セットのスケジューリング

Manager を使用して、レジストリーに公開されているサービス、またはサービス・セットをスケジュールします。特定の時刻または特定の間隔でサービスが実行されるようにスケジュール設定できます。

Management Server に関するアクティブなスケジュールが既にサービスにある場合は、その Manager を使用してそのスケジュールを変更します。

レジストリーに公開されているサービスしかスケジュールできません。Designer で開発中のサービスをスケジュールすることはできません。

レジストリーに公開されているサービスをスケジュールできるのは、サービスの実行準備ができていない場合のみです。実行準備ができていないサービスは、次の基準を満たしています。

- サービスは、アクティブかつ Manager に接続されている Management Server に割り当てられている。サービスを実行するためにライセンスが必要な場合、この Management Server には、サービスの有効なライセンスが含まれていることも必要です。
- サービスは、アクティブかつ Manager および Management Server に接続されている Proxy に割り当てられている。Proxy は、サービスに関連付けられたサービス・タイプを実行できるようになっていることも必要です。サービス・タイプが「**Executor**」および「**Distributed**」の場合、サービス実行コンポーネントがインストールおよび構成されていて、さらに Proxy がサービス実行コンポーネントを実行できるように構成されている必要があります。
- サービスに指定されているデータベース・ドライバーが、リポジトリにロードされている。

サービス・セット内のすべてのサービスの実行準備ができていない場合にも、サービス・セットをスケジュールできます。

ユーザー・ロールが admin、dba、designer、または operator のユーザーだけが、サービスまたはサービス・セットをスケジュールできます。サービスまたはサービス・セットをスケジュールするには、ユーザーに「サービス管理」タブへのアクセス権限が必要です。サービスがサービス・グループに属している場合、ユーザーに、そのサービスが属しているサービス・グループに対するアクセス権限が必要です。

サービスまたはサービス・セットでは、各 Management Server について 1 つのスケジュールが可能です。

Manager を使用してサービスまたはサービス・セットをスケジュールするには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「サービス」フォルダーを開きサービスをクリックするか、または「サービス・セット」フォルダーを開きサービス・セットをクリックします。
4. 「サービス計画」をクリックして、サービス計画プロパティを調べます。 サービス計画プロパティを変更できます。変更内容を保存するには、「保存」をクリックします。 サービス計画への変更は、サービス計画を再び変更するか、またはサービス計画をデフォルト値に復元するまで保存されます。 サ

ービス・セットをスケジュール中の場合、サービス・セット内の任意のサービスのサービス計画プロパティを変更できます。これらの変更はサービスそのものに対して行われ、サービス・セットに対しては行われません。

5. 「サービス・スケジュール」をクリックします。選択した Management Server に関するアクティブなスケジュールが既にサービスまたはサービス・セットにある場合、ウィザードにアクティブなスケジュールが表示されます。選択した Management Server に関するアクティブなスケジュールがサービスまたはサービス・セットにない場合、「スケジュールの作成」をクリックします。
6. スケジュール詳細の入力または変更を行い「保存」をクリックします。

サービスの停止

レジストリーに公開されたサービスを Manager を使用して実行する場合、サービスの完了前に Manager を使用してサービスを停止できます。計画していた実行時間よりも長く実行されているサービスを停止することもできます。

停止できるのは、サービス・タイプが「**Executor**」のサービスのみです。サービスは、状態が「**開始**」の場合にのみ停止できます。

Designer から実行されているサービスは停止できません。

サービスを停止するには、ユーザーに「サービス・モニター」タブに対するアクセス権限が必要です。そうでないとすると、どのユーザーも、他のユーザーが実行またはスケジュールを設定したサービスを停止できてしまいます。

サービスを停止しても、サービスがデータベースに対して行った変更は取り消されません。

Manager を使用して、実行中のサービスを停止するには、以下のようになります。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス・モニター」をクリックします。
3. 「サービス・モニター」ページの 1 番目のセクションで、停止するサービスに対応するインスタンスをクリックします。停止するサービスに対応するインスタンスを表示するために、異なるサービス・モニター・フィルターを使用しなければならない場合があります。
4. 「停止」をクリックし、「OK」をクリックして確定します。

Manager を使用してサービス・インスタンスの状況をモニターする

Manager を使用することで、実行しているサービスの状況をモニターできます。

ダッシュボード

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする際、「ダッシュボード」インターフェースを使用できます。「ダッシュボード」を使用すると、Manager、Manager に関連付けられた Management Server と Proxy、および Manager を使用して実行する任意のサービスの状況をモニターできます。

サービス・モニター

「サービス・モニター」では、サービスまたはサービス・セットの実行時に生成されるサービス・インスタンス・レコードを検討できます。サービス・インスタンス・レコードには、サービス・インスタンスごとの状況情報が格納されます。

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする場合、サービス・グループによって、どのサービス・インスタンス・レコードが「サービス・モニター」の下に表示されるかが決まります。関連するすべてのサービスが属するサービス・グループすべてに対するアクセス権限を持っているユーザーだけが、サービス・インスタンス・レコードを見ることができます。例えば、ユーザー smith はどのサービス・グループに対するアクセス権限も持っていません。その場合、ユーザー smith は、サービス・グループに属するどのサービスの、どのサービス・インスタンス・レコードも見ることができません。ユーザー smith は、サービス・グループに属するサービスを含むどのサービス・セットの、どのサービス・インスタンス・レコードも見ることができません。

サービス管理

「サービス管理」では、作動不能なサービスと作動可能なサービスの比率を示すグラフを確認できます。実行の準備ができていないサービスは、以下のすべての基準を満たします。

- サービスは、アクティブかつ Manager に接続されている Management Server に割り当てられている。サービスを実行するためにライセンスが必要な場合、この Management Server には、サービスの有効なライセンスが含まれていることも必要です。
- サービスは、アクティブかつ Manager および Management Server に接続されている Proxy に割り当てられている。Proxy は、サービスに関連付けられたサービス・タイプを実行できるようになっていることも必要です。サービス・タイプが「**Executor**」および「**Distributed**」の場合、サービス実行コンポーネントがインストールおよび構成されていて、さらに Proxy がサービス実行コンポーネントを実行できるように構成されている必要があります。
- サービスに指定されているデータベース・ドライバーが、リポジトリにロードされている。

グラフをダブルクリックして、作動可能なサービスを実行できる場所にジャンプします。

グラフの情報を表に表示するには、「表形式ビュー」をクリックします。

構成 「構成」では、Manager に追加された Management Server および Proxy の状況を検査できます。Manager と Management Server および Proxy との間の接続に問題がないのかも確認できます。接続の問題は、ネットワークに問題があることや、Management Server または Proxy が実行されていないことを示している場合があります。

サービス・モニター

「サービス・モニター」を使用して、サービス・インスタンス・レコードのリストを Manager に表示します。サービス・インスタンス・レコードは、サービスまたはサービス・セットを実行するときに常に作成されます。サービス・インスタンス・レコードには、各サービス・インスタンスの状況と、そのサービス・インスタンスが正常に完了したかどうかを示されます。

「サービス・モニター」には、以下の 2 つのセクションがあります。

- 1 つ目のセクションには、サービス・インスタンス・レコードのリストが含まれます。
- 2 番目のセクションには、1 番目のセクションで選択したサービス・インスタンスに関する詳細情報が含まれます。サービスが正常に完了しない場合は、この情報を使用して問題を診断できます。
 - 「サービスの結果」には、Executor を使用して実行される (サービス・タイプが「**Executor**」の) サービスの統計情報が表示されます。
 - 「サービスの出力」には、Executor を使用して実行され、失敗したサービスのトレース・ログの出力が表示されます。Executor 以外のサービス実行コンポーネントを使用して実行されるサービスの場合、「サービスの出力」に、結果の出力が表示されます。

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする場合、フィルターを作成して、「サービス・モニター」に表示されるサービス・インスタンス・レコードのタイプを制限できます。状況、サービス・タイ

プ、サービス要求タイプ、Management Server、およびサービス開始時刻に基づいてリストをフィルター処理できます。フィルターはユーザー・レコードに保存され、そのフィルターを削除するまで使用可能です。

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする場合、サービス・グループによって、どのサービス・インスタンス・レコードが「サービス・モニター」の下に表示されるかが決まります。関連するすべてのサービスが属するサービス・グループすべてに対するアクセス権限を持っているユーザーだけが、サービス・インスタンス・レコードを見ることができます。例えば、ユーザー smith はどのサービス・グループに対するアクセス権限も持っていません。その場合、ユーザー smith は、サービス・グループに属するどのサービスの、どのサービス・インスタンス・レコードも見ることができません。ユーザー smith は、サービス・グループに属するサービスを含むどのサービス・セットの、どのサービス・インスタンス・レコードも見ることができません。

第 5 章 コマンド行の処理の使用

コマンド行からサービス要求を Management Server にサブミットすることにより、1 つ以上のサービスを実行することができます。

サービスを実行する前に、Manager を使用して、サービスを Proxy および Management Server に割り当てる必要があります。サービス要求を処理するためには、Proxy と Management Server が実行中でなければなりません。コマンド行の処理を実行するために必要なファイルを入手するには、InfoSphere Data Architect および IBM Optim Designer もインストールする必要があります。

以下の 2 つの方法でコマンド行を使用できます。

- **runservice** スクリプトを使用すると、限られた引数を使用して実行サービスを入力できます。このスクリプトは、必要に応じてカスタマイズできます。
- **java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar** コマンドを、独自に準備したスクリプトで使用できます。

runservice スクリプト

runservice スクリプトは、`ida_folder\optim\designer\runservice` フォルダーにあります。ここで、`ida_folder` は InfoSphere Data Architect がインストールされているフォルダーです。コマンド行を、`ida_folder\optim\designer\runservice` フォルダーで開く必要があります。このフォルダーには、2 つのスクリプト・ファイルが入っています。1 つは、Microsoft Windows 用 (**runservice.bat**) で、もう 1 つは Linux および UNIX 用 (**runservice.sh**) です。

runservice スクリプトを使用するには、Java 6.0 JRE または JDK インストール済み環境のルート・フォルダーを PATH 環境変数に追加する必要があります。

Management Server および Proxy に割り当てられたサービスを実行する際、**runservice** スクリプトでは以下の構文を使用します。

```
runservice [--service | -s] servicename:version  
[--url | -u] serverURL [--continueOnError | -c]
```

--service | -s servicename:version

サービスの名前およびバージョン番号 (*n.n.n* の形式) を指定します。必須です。

サービス名は、大/小文字が区別されます。サービス名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

例えば、**-s demosvc:1.0.0** と指定します。

--url | -u serverURL

サービスを含むリポジトリおよびレジストリーをホストする Management Server の場所を指定します。デフォルトで使用される場所は、`http://localhost:8080` です。

例えば、**-u http://mgmtserver1:8080** と指定します。

--continueOnError | -c

このパラメーターは、Proxy がサービスの開始に失敗する場合でも、実行のために Proxy へサービスを送信し続けるスクリプトを設定します。

エクスポートされたサービス要求を実行する際、**runservice** スクリプトでは以下の構文を使用します。

```
runservice {-r|--serviceRequest} requestfilepath  
{-u|--url} proxyURL {-j|--jarMap} mapfilepath  
{-v|--overrideValues} overridefilepath {-l|--logLevel} loglevel  
{-t|--timeout} seconds|never {-p|--serviceResponse} responsefilepath
```

--serviceRequest | -r requestfilepath

エクスポートされたサービス要求の完全ファイル・パスを指定します。必須です。

サービス要求ファイル名は、大文字と小文字を区別します。ファイル名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

例えば、**-r demosvc.jar** と指定します。

--url | -u proxyURL

サービスの実行に使用する Proxy の場所を指定します。デフォルトで使用される場所は、**http://localhost:12000** です。

例えば、**-u http://proxy1:12000** と指定します。

--jarMap | -j mapfilepath

マップ・ファイルの完全ファイル・パスを指定します。

マップ・ファイル名は、大文字と小文字を区別します。ファイル名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

--overrideValues | -v overridefilepath

指定変更ファイルの完全ファイル・パスを指定します。

マップ・ファイル名は、大文字と小文字を区別します。ファイル名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

--logLevel | -l loglevel

サービスのログ・レベル (つまり、ログに含めるメッセージの最低の重大度) を指定します。指定できる値は、低から高へ順番に以下のとおりです。

- OFF
- SEVERE
- WARNING
- INFO
- CONFIG
- FINE
- FINER
- FINEST
- ALL

例えば、**-l INFO** と指定します。

--timeout | -t timeoutseconds

終了前に応答を待機する秒数 (または待機しないこと) を指定します。デフォルトでは、**runservice** スクリプトは 600 秒待機します。

--serviceResponse | -p serviceresponsefile

サービスの応答が書き込まれるファイルの完全ファイル・パスを指定します。

java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar コマンド

com-ibm-nex-client-tool.jar ファイルは、`ida_folder%optim%designer%runservice` フォルダーにあります。ここで、`ida_folder` は InfoSphere Data Architect がインストールされているフォルダーです。コマンド行を、`ida_folder%optim%designer%runservice` フォルダーで開く必要があります。

java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar コマンドでは、以下の構文を使用します。ここで、`java_folder` は Java 6.0 JRE または JDK インストール済み環境のルート・フォルダーです。このコマンドを入力するたびにルート・フォルダーを入力する必要があるようにするには、ルート・フォルダーを `PATH` 環境変数に追加します。

```
java_folder/java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar
{--service | -s} servicename:version
{--url | -u} serverURL {--continueOnError | -c}
```

--service | -s servicename:version

データ管理サービスの名前およびバージョン番号 (`n.n.n` 形式で)。必須です。

サービス名は、大/小文字が区別されます。サービス名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

例えば、`-s demosvc:1.0.0` と指定します。

--url | -u serverURL

サービスを含むリポジトリおよびレジストリーをホストする Management Server の場所を指定します。必須です。

例えば、`-u http://mgmtserver1:8080` と指定します。

--continueOnError | -c

このパラメーターは、Proxy がサービスの開始に失敗する場合でも、実行のために Proxy へサービスを送信し続けるスクリプトを設定します。

複数のサービスの実行

コマンド行を使用して、同一の Management Server にデプロイされている、複数のサービスを実行することができます。サービスは指定された順序で、一度に 1 つずつ開始されます。実行は並列的に行われます。

それぞれのサービスとバージョンの対を、コンマで区切って指定します。コンマの前後にスペースを残さないようにしてください。

例を挙げます。

```
runservice -s service1:1.0.0,service2:1.0.0 -u http://mygmtserver:8080 -c
```

サービス名に含まれるスペース

サービス名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符 (" ") で囲む必要があります。例を挙げます。

```
runservice -s "service name":1.0.0 -u http://mygmtserver:8080
```

エクスポートされたサービス要求の実行

コマンド・ラインを使用して、ファイルにエクスポートされたサービス要求を実行できます。

例を挙げます。

```
runservice -r C:%services%service1.jar -u http://myproxy:12000
```

指定変更ファイル

指定変更ファイル とは、サービス要求パラメーターを含む XML ファイルです。エクスポートされたサービス要求の実行時に指定変更ファイルを指定すると、runservice スクリプトは要求の実行中に、指定変更ファイル内にあるパラメーターを使用します。

runservice スクリプトを使用して、サービス要求のパラメーターを含む指定変更ファイルを生成できます。

```
runservice {-g|--generateOverrideTemplate} requestfilepath  
{-v|--overrideValues} overridefilepath {-i|--includeComments} {true|false}
```

--generateOverrideTemplate | -g requestfilepath

エクスポートされたサービス要求の完全ファイル・パスを指定します。必須です。

サービス要求ファイル名は、大文字と小文字を区別します。サービス要求ファイル名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

--overrideValues | -v overridefilepath

新しい指定変更ファイルの完全ファイル・パスを指定します。

例えば、-v C:%override%requestfileoverride.xml と指定します。

--includeComments | -i

指定変更ファイルにコメントを含めるかどうかを指定します。有効な値は true および false です。デフォルトでは、指定変更ファイルにコメントは入れません。

指定変更ファイルの生成後に、指定変更ファイル内のパラメーターを変更できます。サービス要求の実行時には、変更済みの指定変更ファイルを指定できます。そうすると、runservice スクリプトでは変更されたパラメーターを使用してサービス要求を実行します。

指定変更ファイルでは、サービス要求と同じ XML 名前空間 (<http://www.ibm.com/nex/ecore/2.2.0/svc>) が使用されます。指定変更ファイルのルート・エレメントは常に Overrides です。一般的な形式は、指定変更グループと属性のネストした階層であり、これら指定変更グループと属性はサービス要求内にある指定変更グループと属性の記述子から派生したものです。runservice スクリプトによる指定変更テンプレートの生成時に、グループ要素と属性要素には、指定変更グループと属性の記述子名を使用して名前が付けられます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<svc:Overrides xmlns:svc="http://www.ibm.com/nex/ecore/2.2.0/svc">  
  <svc:ParentGroup uuid="...">  
    <svc:ChildGroup uuid="...">  
      <svc:Attribute1 value="..." uuid="..." />  
      <svc:Attribute2 value="..." uuid="..." />  
      <svc:Attribute3 value="..." uuid="..." />  
      ...  
    </svc:ChildGroup>  
  </svc:ParentGroup>  
</svc:Overrides>
```

```

    ...
</svc:ParentGroup>
    ...
</svc:Overrides>

```

指定変更ファイルは UTF-8 エンコードでなければなりません。

マップ・ファイル

マップ・ファイルとは、サービス要求内の JDBC ドライバーと Proxy の JDBC ドライバーを一致させるために Proxy が使用するファイルです。サービス要求内の JDBC ドライバーがマップ・ファイル内の行と一致すれば、Proxy は、その行で指定された JDBC ドライバーを使用します。サービス要求内の JDBC ドライバーがマップ・ファイル内のどの行とも一致しなければ、Proxy ではサービス要求で指定された JDBC ドライバーそのものを使用します。(Proxy では、Proxy に JDBC ドライバーのより新しいバージョンが存在すればそれを使用するように構成できます。)

runservice スクリプトで使用するマップ・ファイルは、標準的な Java .properties ファイルと似ています。空白行は無視されます。ポンド文字 (#) で始まる行はコメントとして扱われます。その他のすべての行は以下の形式に従う必要があります。

```
<regex>=<path>
```

<regex> は、有効な正規表現パターンであり、Designer が提供する .jar ファイル名との突き合わせに使用されます。<path> は、Proxy の実際の .jar ファイルの絶対パスです。

例えば、マップ・ファイルには以下のような行を記述します。

```
db2jcc4.*.jar=/opt/IBM/sql1lib/java/db2jcc4.jar
db2jcc4_license_cu.*.jar=/opt/IBM/sql1lib/java/db2jcc4_license_cu.jar
```

サービス要求で JDBC ドライバー db2jcc4-9.1.jar を使用するよう設定されている場合、Proxy では JDBC ドライバー /opt/IBM/sql1lib/java/db2jcc4.jar を使用してサービス要求を実行します。サービス要求で JDBC ドライバー db2jcc4_license_cu-9.1.jar を使用するよう設定されている場合、Proxy では JDBC ドライバー /opt/IBM/sql1lib/java/db2jcc4_license_cu.jar を使用してサービス要求を実行します。

パスワードの暗号化

runservice スクリプトを使用すると、サービス要求の平文パスワードを暗号化できます。

```
runservice {-e|--encryptPassword} password
```

```
--encryptPassword | -e password
```

暗号化する平文パスワードを指定します。必須です。

開始表の参照

runservice スクリプトを使用して、サービス要求の開始表 (およびその他の表) を表示できます。

```
runservice {-a|--startTable} requestfilepath
{-o|--otherTables } {true|false}
```

```
--startTable | -a requestfilepath
```

開始表が表示される、エクスポートされたサービス要求の完全ファイル・パスを指定します。必須です。

サービス要求ファイル名は、大文字と小文字を区別します。ファイル名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

--otherTables | -o

サービス要求内のその他の表を出力に含めるかどうかを指定します。有効な値は `true` および `false` です。デフォルトでは、すべての表が入ります。

サービス要求の表示

`runservice` スクリプトを使用して、サービス要求の情報を表示できます。

```
runservice {-d|--displayService} requestfilepath  
{-x|--xsltStylesheet} stylesheetpath
```

--displayService | -d requestfilepath

情報が表示される、エクスポートされたサービス要求の完全ファイル・パスを指定します。必須です。

サービス要求ファイル名は、大文字と小文字を区別します。ファイル名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

--xsltStylesheet | -x xsltfilepath

サービス要求のフォーマット設定に使用する XSLT スタイル・シートの完全ファイル・パスを指定します。

XSLT スタイル・シート・ファイル名は、大文字と小文字を区別します。ファイル名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

コマンド行の例

このセクションでは、Management Server コマンドを使用してサブミットされるサービス要求の例を示します。

以下の構文では、サービスを実行するために `java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar` コマンドを使用しています。ここで、`../../../../Java60/jre/bin/` は、`com-ibm-nex-client-tool.jar` ファイルが入っているフォルダーから Java 6.0 JRE インストール済み環境が入っているフォルダーへの相対パスです。

```
../../../../Java60/jre/bin/java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar -s service1:1.0.0 -u http://localhost:8080/server/job
```

以下の構文では、**runservice** スクリプトを使用して、Management Server がデフォルト URL を使用しないサービスを実行します。

```
runservice -s service1:1.0.0 -u http://server1:8080/server/job
```

以下の構文では、**runservice** スクリプトを使用して複数のサービスを実行します。

```
runservice -s service1:1.0.0,service2:1.2.0
```

以下の構文では、**runservice** スクリプトを使用してサービス名の中にスペースがあるサービスを実行します。

```
runservice -s "service one":1.0.0
```


第 6 章 レジストリーへのサービスとしての Optim 要求の公開

Publisher を使用して、指定された要求からサービスを生成したり、そのサービスをレジストリーに公開したりします。要求がレジストリーに公開された後で、アプリケーション・サーバー上の Manager へアクセスし、Manager を使用して要求を実行できます。要求は別個に公開することも、要求のリストを含むテキスト・ファイルを使用して複数の要求を 1 度に公開することもできます。

以下の条件に適合するコンピューター上に、Publisher をインストールする必要があります。

- コンピューターは、Optim ワークステーションまたは Optim サーバーのどちらかである必要があります。
- コンピューターは、公開する要求を含む Optim Directory へアクセスできる必要があります。

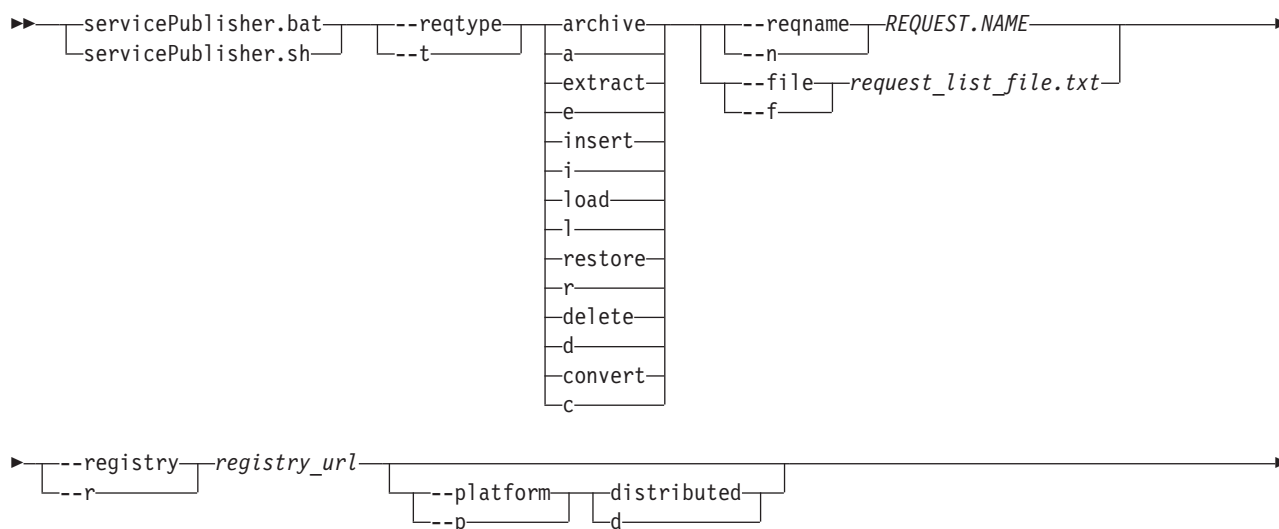
サービスを実行するために使用される各 Proxy を構成して、Proxy が要求を含む Optim Directory へアクセスできるようにする必要があります。サービス実行時、Proxy は Optim Directory の要求を読み取り、要求設定を使用してサービスを実行します。例えば、Proxy は Optim Directory からローカル・アクセス定義および表マップを使用します。Manager で要求設定を変更することはできません。

複数の要求を 1 度に公開するには、要求のリストを含むテキスト・ファイルを作成します。このテキスト・ファイルでは、1 行に 1 つの要求を入れる必要があります。ファイル内のすべての要求は、同じ要求タイプである必要があります。

Optim 要求をサービスとしてレジストリーへ公開するには、コンピューター上で適切な servicePublisher スクリプトを実行します。servicePublisher スクリプトは、Optim Service Publisher インストール・パッケージで指定した、インストール・ディレクトリーにあります。

- Microsoft Windows コンピューター上で、servicePublisher.bat を実行します。
- Linux または UNIX コンピューター上で、servicePublisher.sh を実行します。

以下の図に、servicePublisher スクリプトの構文を示します。





servicePublisher スクリプトの受け付けるパラメーターは、以下のとおりです。

--reqtype または **--r**

--reqtype パラメーターは、公開する要求の要求タイプを定義します。要求リスト・ファイルを使用して要求を公開する場合、ファイル内のすべての要求は同じ要求タイプである必要があります。

必須かどうか

はい

有效值

- archive または a
- extract または e
- insert または i
- load または l
- restore または r
- delete または d
- convert または c

デフォルト値

なし

大/小文字を区別するか

いいえ

--reqname または **--n**

--reqname パラメーターは、Optim Directory に存在する要求と同じ名前で要求の名前を定義します。 --reqname パラメーターは、ユーザーがコマンド行から 1 つのサービス要求を公開できるようにします。

必須かどうか

--reqname または --file のどちらかを指定する必要がありますが、両方指定することはできません。

有効値 Optim Directory で定義される、有効な任意の要求 (妥当性検査は実行されません)

例 OPTDMO.HRDATA

デフォルト値

なし

大/小文字を区別するか

いいえ

--file または **--f**

--file パラメーターは、Optim Directory に存在する一連の要求名を含むファイルを定義します。要求名は、復帰改行によって区切られます。 --file パラメーターは、ユーザーがコマンド行から同じタイプの複数のサービス要求を公開できるようにします。

必須かどうか

--reqname または --file のどちらかを指定する必要がありますが、両方指定することはできません。

有効値 Optim Directory で定義されている要求が含まれている、有効な任意のファイル (妥当性検査の実行なし)

例 C:\requests¥extractRequests.txt

デフォルト値

なし

大/小文字を区別するか

はい

--registry または --r

--registry パラメーターは、サービス要求が公開されるレジストリーの場所を定義します。

必須かどうか

はい

有効値 任意の有効なレジストリーの場所 (妥当性検査は実行されません)

例 http://mgmtserverhostname:8080/server/registry

デフォルト値

なし

大/小文字を区別するか

いいえ

--platform または --p

--platform パラメーターは、要求のサービス実行コンポーネントを定義します。

必須かどうか

いいえ

有効値 distributed または d

デフォルト値

distributed

大/小文字を区別するか

いいえ

--server または --s

--server パラメーターは、各サービス要求によって使用される Optim サーバーの名前を定義します。Publisher が要求のためにサービスを作成する際、Publisher はサービス計画内のこの Optim サーバーを使用します。このパラメーターにおけるサーバーは、サービスを実行するために使用される Proxy 上で有効なサーバーである必要があります。値が指定されない場合、サービスはサービスが実行される Proxy として、デフォルトの Optim サーバーを使用するように設定されます。

必須かどうか

いいえ

有効値 任意の有効な Proxy 上のサーバー (妥当性検査は実行されません)

デフォルト値

なし

大/小文字を区別するか

いいえ

--directory または --d

--directory パラメーターは、各サービス要求によって使用される Optim Directory を定義しま

す。Publisher が要求のためにサービスを作成する際、Publisher はサービス計画内のこの Optim Directory を使用します。値が指定されない場合、サービスはサービスが実行される Proxy として、デフォルトの Optim Directory を使用するよう設定されます。

必須かどうか

いいえ

有効値 Proxy 上の任意の有効な Optim Directory (妥当性検査は実行されません)

デフォルト値

なし

大/小文字を区別するか

いいえ

Windows コンピューターで単一行に以下のコマンドを入力すると、Publisher は C:¥requests¥extractRequests.txt ファイル内の抽出要求に基づいて、サービスを作成します。サービスは、レジストリー `http://mgmtsserverhostname:8080/server/registry` に公開されます。

```
servicePublisher.bat --p distributed --t extract --r http://mgmtsserverhostname:8080/server/registry  
--f C:¥requests¥extractRequests.txt
```

Linux コンピューター上で単一行に以下のコマンドを入力すると、Publisher は抽出要求 EXT.MYEXTRACT に基づいてサービスを作成します。サービスは、レジストリー `http://mgmtsserverhostname:8080/server/registry` に公開されます。

```
servicePublisher.sh --p distributed --t extract --r http://mgmtserverhostname:8080/server/registry  
--n EXT.MYEXTRACT
```

付録. Optim Manager のユーザー・インターフェースのリファレンス

IBM Optim Manager のユーザー・インターフェースによって、Optim サービスの実行および管理が可能です。

Optim Manager ユーザー・インターフェースは、以下のタブおよび「設定」ダイアログを含みます。

- ダッシュボード
- 構成
- サービス管理
- サービス・モニター

一部のユーザー、またはある状況で使用できないタブがあるかもしれません。Manager には、標準のユーザー・インターフェースには含まれない、ユーザー定義タブが含まれる可能性もあります。

ダッシュボード

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする際、「ダッシュボード」インターフェースを使用できます。「ダッシュボード」を使用すると、Manager、Manager に関連付けられた Management Server と Proxy、および Manager を使用して実行する任意のサービスの状況をモニターできます。

サービス・モニター

「サービス・モニター」では、サービスまたはサービス・セットの実行時に生成されるサービス・インスタンス・レコードを検討できます。サービス・インスタンス・レコードには、サービス・インスタンスごとの状況情報が格納されます。

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする場合、サービス・グループによって、どのサービス・インスタンス・レコードが「サービス・モニター」の下に表示されるかが決まります。関連するすべてのサービスが属するサービス・グループすべてに対するアクセス権限を持っているユーザーだけが、サービス・インスタンス・レコードを見ることができます。例えば、ユーザー smith はどのサービス・グループに対するアクセス権限も持っていません。その場合、ユーザー smith は、サービス・グループに属するどのサービスの、どのサービス・インスタンス・レコードも見ることができません。ユーザー smith は、サービス・グループに属するサービスを含むどのサービス・セットの、どのサービス・インスタンス・レコードも見ることができません。

サービス管理

「サービス管理」では、作動不能なサービスと作動可能なサービスの比率を示すグラフを確認できます。実行の準備ができていないサービスは、以下のすべての基準を満たします。

- サービスは、アクティブかつ Manager に接続されている Management Server に割り当てられている。サービスを実行するためにライセンスが必要な場合、この Management Server には、サービスの有効なライセンスが含まれていることも必要です。
- サービスは、アクティブかつ Manager および Management Server に接続されている Proxy に割り当てられている。Proxy は、サービスに関連付けられたサービス・タイプを実行できるようになっていることも必要です。サービス・タイプが「Executor」および「Distributed」の場合、サ

サービス実行コンポーネントがインストールおよび構成されていて、さらに Proxy がサービス実行コンポーネントを実行できるように構成されている必要があります。

- サービスに指定されているデータベース・ドライバーが、リポジトリにロードされている。

グラフをダブルクリックして、作動可能なサービスを実行できる場所にジャンプします。

グラフの情報を表に表示するには、「**表形式ビュー**」をクリックします。

構成 「構成」では、Manager に追加された Management Server および Proxy の状況を検討できます。Manager と Management Server および Proxy との間の接続に問題がないのかも確認できます。接続の問題は、ネットワークに問題があることや、Management Server または Proxy が実行されていないことを示している場合があります。

構成

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする際、「構成」インターフェースを使用できます。「構成」を使用すると、Manager、Management Server、および Proxy の間の接続を表示および構成できます。

Manager に対する管理者権限 (ユーザー・ロール admin) を持つユーザーが、「構成」を使用して以下のタスクを実行できます。

- Management Server および Proxy を追加する。
- Management Server のライセンスを追加する。
- リポジトリに JDBC データベース・ドライバーをアップロードする。
- サービス・グループを作成し、それらのサービス・グループにユーザー・アクセス権限を付与する。
- Manager 内に表示されるユーザー定義タブを作成する。
- ユーザー・ロール admin を持たないユーザーで表示されるタブを構成する。

管理者は、Manager によって使用されるレジストリーの場所を設定した後すぐに、これらのタスクを実行できます。ユーザーが Manager からサービスを実行するためには、どんな場合も、管理者が先に少なくとも 1 つの Management Server と Proxy を追加しておく必要があります。

Manager に対するデータベース管理者権限 (ユーザー・ロール dba) を持つユーザーが、「構成」を使用して以下のタスクを実行できます。

- 管理者権限を持っていないユーザーが「構成」 > 「**Management Server**」を表示することが許可されている場合、Management Server に対するライセンスを追加すること。
- 管理者権限を持っていないユーザーが「構成」 > 「**データベース・ドライバー**」を表示することが許可されている場合、リポジトリへ JDBC データベース・ドライバーをアップロードすること。

サービス管理

「サービス管理」を使用して、サービスやサービス・セットの構成、実行、および管理を行います。

Designer からアクセスする場合

Designer から Manager にアクセスした場合、「サービス管理」には、現在 Designer に存在するサービスがリストされます。「サービス管理」を使用して、サービスの実行、「設定」で設定されているレジストリーへのサービスの公開、またはファイルへのサービスのエクスポートを行えます。

アプリケーション・サーバーにアクセスする場合

アプリケーション・サーバー上の Manager にアクセスする場合、「サービス管理」にある次の 2 つのセクションを使用します。

- レジストリーにあるサービスのリスト、およびレジストリーにあるサービス・セットのリストを表示するセクション
- 1 番目のセクションで選択したサービスおよびサービス・セットに関する詳細情報を表示するセクション

サービスまたはサービス・セットを選択して、そのサービスまたはサービス・セットに関する以下の追加情報を表示します。

- 「サービスの詳細」は、選択されたサービスに関する、あるいは選択されたサービス・セット内の各サービスに関する概要情報を表示します。この情報を使用して、サービスの実行を妨げる問題を診断できます。例えば、プラットフォーム状況は、サービス実行コンポーネントが Proxy 用に構成されているかどうかを示します。また、ドライバー状況は、リポジトリがサービスに必要なドライバーと一致するデータベース・ドライバーを含むかどうかを示します。サービスがネイティブ・データベース・アクセスを有効にするソフトウェアを必要とする場合、ネイティブ・データ・ストア状況は、Proxy 上にネイティブ・データベース・ソフトウェアがインストールされ構成されているかどうかを示します。
- 「サービス計画」には、選択したサービス、または選択したサービス・セットの各サービスのサービス計画が表示されます。サービス計画には、サービスを実行するために使用されるパラメーターが含まれます。多くのタイプのサービスでは、各サービスを実行するために使用されるパラメーターの値を変更できます。パラメーター値を変更できる場合、パラメーターをデフォルト値にリセットすることもできます。
- 「サービス・スケジュール」には、選択したサービスまたはサービス・セットの既存のすべてのスケジュールが表示されます。各 Management Server 上で、サービスまたはサービス・セットを 1 度スケジュールできます。スケジュールは、1 度だけ実行するように、または特定の時間数または特定の日数が経過するたびに、あるいは毎月の特定の日に繰り返し実行するように、スケジュールを設定できます。毎月の何日に実行するかを指定した場合、ある月についてはその日が存在しない場合、その月はスケジュールが実行されません。スケジュールを繰り返すように設定した場合、無期限に繰り返すか、あるいは特定の日時に至るまで繰り返すかを設定できます。

サービス・モニター

「サービス・モニター」を使用して、サービス・インスタンス・レコードのリストを Manager に表示します。サービス・インスタンス・レコードは、サービスまたはサービス・セットを実行するときに常に作成されます。サービス・インスタンス・レコードには、各サービス・インスタンスの状況と、そのサービス・インスタンスが正常に完了したかが示されます。

「サービス・モニター」には、以下の 2 つのセクションがあります。

- 1 つ目のセクションには、サービス・インスタンス・レコードのリストが含まれます。
- 2 番目のセクションには、1 番目のセクションで選択したサービス・インスタンスに関する詳細情報が含まれます。サービスが正常に完了しない場合は、この情報を使用して問題を診断できます。
 - 「サービスの結果」には、Executor を使用して実行される (サービス・タイプが「Executor」の) サービスの統計情報が表示されます。
 - 「サービスの出力」には、Executor を使用して実行され、失敗したサービスのトレース・ログの出力が表示されます。Executor 以外のサービス実行コンポーネントを使用して実行されるサービスの場合、「サービスの出力」に、結果の出力が表示されます。

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする場合、フィルターを作成して、「サービス・モニター」に表示されるサービス・インスタンス・レコードのタイプを制限できます。状況、サービス・タイプ、サービス要求タイプ、Management Server、およびサービス開始時刻に基づいてリストをフィルター処理できます。フィルターはユーザー・レコードに保存され、そのフィルターを削除するまで使用可能です。

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする場合、サービス・グループによって、どのサービス・インスタンス・レコードが「サービス・モニター」の下に表示されるかが決まります。関連するすべてのサービスが属するサービス・グループすべてに対するアクセス権限を持っているユーザーだけが、サービス・インスタンス・レコードを見ることができます。例えば、ユーザー smith はどのサービス・グループに対するアクセス権限も持っていません。その場合、ユーザー smith は、サービス・グループに属するどのサービスの、どのサービス・インスタンス・レコードも見ることができません。ユーザー smith は、サービス・グループに属するサービスを含むどのサービス・セットの、どのサービス・インスタンス・レコードも見ることができません。

設定

Manager 用の優先される操作設定値を設定する場合は、「設定」を使用します。

ユーザー設定

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスした場合、「ユーザー設定」が使用可能です。各ユーザーは、Manager が表示を更新する時間間隔の「ユーザー設定」を設定できます。

グローバル設定

Designer から Manager にアクセスした場合、またはアプリケーション・サーバーの Manager に管理者がアクセスした場合には、「グローバル設定」が使用可能です。

- Designer ユーザーは「グローバル設定」を使用して、サービスを公開できるレジストリーの場所を設定できます。Designer ユーザーは、Manager が表示を更新する時間間隔も設定できます。
- 管理者は「グローバル設定」を使用して、以下のタスクを実行できます。
 - Manager から実行できるサービスのあるレジストリーの場所を設定します。
 - すべての Manager ユーザーのデフォルト時間間隔、および Manager のセキュリティ設定値 (タイムアウトなど) を設定します。
 - Management Server でサービス・セットの有効化、およびセキュア接続の有効化を行います。

表示設定

各ユーザーは、「表示設定」を使用して、ローカル・コンピューターで使用するカラー・スキームとフォント・サイズを設定できます。各ユーザーは、表示させたい確認ダイアログも選択できます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502

神奈川県大和市下鶴間1623番14号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

Software Interoperability Coordinator

Director of Engineering, Information Management (Office 16)

111 Campus Drive

Princeton, NJ 08540

USA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[カ行]

コマンド行の処理

概要 25

例 30

com-ibm-nex-client-tool.jar 27

java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar 27

runservice スクリプト 25

[サ行]

サービス

サービス計画の変更 13

再割り当て 12

実行 19

スケジューリング 20

停止 21

サービス計画

変更 13

[タ行]

データ管理サービス

サービス計画の変更 13

再割り当て 12

実行 19

データベース・ドライバー

レポジトリへの追加 12

[マ行]

モニター

Manager 21

Optim Manager 21

Optim ランタイム環境 21

[ラ行]

レポジトリ

そこへのデータベース・ドライバーの

追加 12

定義 2

レジストリー

そこへの Management Server ライセン
スの追加 10

その場所の設定 9

定義 2

C

com-ibm-nex-client-tool.jar 27

E

Executor

他のコンポーネントとの相互作用 3

executor

定義 2

J

java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar 27

M

Management Server

サービスの再割り当て 12

他のコンポーネントとの相互作用 3

定義 1

レジストリーへのライセンスの追加
10

Optim Manager への追加 10

Manager

構成 9

「構成」インターフェース 36

「サービス管理」インターフェース
36

サービスのサービス計画の変更 13

サービスの実行 19

サービスのスケジューリング 20

サービスの停止 21

「サービス・モニター」インターフェ
ース 37

使用 19

「設定」インターフェース 38

そこへの Management Server の追加
10

「ダッシュボード」インターフェース
35

他のコンポーネントとの相互作用 3

定義 1

Proxy の追加 11

Manager の「構成」インターフェース
36

Manager の「サービス管理」インターフ
ェース 36

Manager の「サービス・モニター」イン
ターフェース 37

Manager の「設定」インターフェース
38

Manager の「ダッシュボード」インター
フェース 35

O

Optim Executor

定義 2

Optim Management Server

定義 1

Optim Manager

サービスのサービス計画の変更 13

サービスの実行 19

サービスのスケジューリング 20

サービスの停止 21

使用 19

そこへの Management Server の追加
10

他のコンポーネントとの相互作用 3

定義 1

Proxy の追加 11

Optim Manager構成 9

Optim Proxy

定義 2

P

Proxy

サービスの再割り当て 12

他のコンポーネントとの相互作用 3

定義 2

Manager への追加 11

Publisher

定義 3

R

runservice スクリプト 25

S

Service Publisher

定義 3



Printed in Japan